

支部協だより

第43号

発行所
 NTT 労組退職者の会
 沖縄県支部協議会
 沖縄県浦添市城間4-35-2
 ☎098-870-7101
 Fax.098-875-7450
 責任者
 黒島善市

五・一五普天間基地包囲行動 即時閉鎖し撤去せよ!!

会長 黒島 善市



五月一五日、米軍普天間飛行場の早期返還を求め、周囲一、五キロのフェンス沿いにお互いにシッカリ手をつなぐ「人間の鎖」で包囲した。

昨年八月の沖国大構内への米軍ヘリ墜落事故のこともあり、参加者は二万四千名と目標を大きく超えた。引き続き行なわれた県民大会には、岡田民主党代表をはじめ社大党、社民党、共産党など委員長や多数の国会議員、その他団体の代表が決意表明をした。

これら一連の行動を日米両政府は真摯に受けとめ、一日も早い閉鎖そして撤去



をしてほしい。
 そうでなければ、県民の不安・不満が何時爆発するかわからないし、爆発してもおかしくないと思う。
 今年は戦後六〇年。
 去る大戦での悲惨な戦争の体験を後世に伝えるとい

うことは私たち退職者の会の責務だと思う。
 何事も座しては手に入らない。平和も然り。どんなに小さなことでもいい、自分に出来ることから始めよう。

第18回 九退連幹事会報告

五月一六日、長崎市で高齢者・退職者団体連合会九州ブロックの幹事会があった。
 ■碓田代表幹事は、あいさつで
 ①イラクを見てい

いるだけではダメ。参加・行動が必要。憲法を生かしていきたい。平和なくして暮らし無し。
 ③地域に根ざした活動を
 ■久保田事務局長から報告事項
 ①年金改革では、自民、公明、民主の幹事長会議で、自公から国会外でツメていきたいと提案があったが、数回の議論そして、両院合同会議を経て、社民、共産を含む会議の構成人員も決

まった。自公が国会外で行なおうとした裏には何があるのか。今回は民主党の力で、全政党が国会内で行動できるようになったことは良かった。
 ②基礎年金の財源として民主党県は、消費税の一部を目的税に。
 ③一元化の対象を厚生年金と共済年金を先行する↓自民案
 民主党はどうせやるなら国民年金も一緒にやらないと一元化と言えない。
 ④自民党は納税者番号を導入したい。収入によって年金を変えたいのか。
 ⑤核兵器廃絶を求める署名は全国で八五〇万となり、その一部を核兵器廃絶ニューヨーク行動として、NPT再検討会議のデュマル議長に演壇で直接手渡した。
 ■協議事項
 九退連学習会について
 1、開催県中心に八〇名程度、
 2、学習会、懇親会の充実、二日目は各県から特徴などを報告、質疑。
 3、ブロック活動費その他。

「全国交流集会」の報告 講演や活動報告など大いに学ぶ

幹事 渡嘉敷直久

五月一日と二日静岡県熱海市で、一四〇余名が参加してNTT労組退職者の会「全国交流集会」が開催された。

集会是一日目、中央本部の野田企画組織部長による

基調講演「NTT労組の当面する課題について」があり、労働組合の現状と課題・政治団体などについて講演が行われた。

続く記念講演は、「二〇〇歳入門」として食文化研究家の永山久夫氏による健康と食生活がテーマで、ユーモアあふれる話は、内容も非常に興味深いものであった。日本女性が欧米に比較して肌がきれいなのは味噌汁のイソフラボンによるも

のであり、納豆は骨を強くする働きがあり、お茶に多く含まれるカテキンには脳の細胞の老化を防ぐ働きがある、など我々退職者にとつては大いに学ぶ講演であった。

二日目、五つの分散会では、大阪の押し花はがきによるお元氣コール、東京は九〇〇〇人と会員が多すぎ

るため部会に分けている。福岡北九州地区はパソコン教室を独自で実施している、長崎ではパースデーコールをしているなど。各支部協議会の活動や組織運営上の工夫などの報告、そして活発な議論もあり、すばらしい全国交流集会であった。



五城 彰の議会報告

政府の約七〇〇兆円にも及ぶ借金で国民・勤労者・社会的弱者の生活が脅かされている昨今です。今、市民が求めていることは公共工事優先の施策ではなく、市民生活に密着した雇用創出を始め、少子、高齢化社会の環境整備や、市民が安心・安全で暮らせる快適な街づくりを行



5.15での玉城彰議員

第七回幹事会

(五月一日)

報告事項

核兵器廃絶一、〇〇〇万署名期日までに到着した数一六八件七一五五分(その後九件三〇名分着)☆会員数で一〇五%、件数で二五%と予想外の悪さ。他の資料が多かった?

次回からは、電話等でも呼びかけることとする。ご協力いただいた会員には感謝致します。

議題

①玉城アキラ君の現状と課題

民主党県連は、現職の島尻安伊子、上里直司の両氏を公認。玉城アキラを推薦決定。これまでも違いNTT労組の動員は厳しい。

退職者の会としては、お元氣コール等で各自が呼びかけ合うなどを行なう。

②五・一五普天閣基地包囲行動及び県民大会

③二〇〇五情報労連行動に関する事前要請、干羽鶴その他

○沖縄総支部からパソコンの贈呈

○当面の日程など

伊平屋の歴史と歌枕を訪ねて

三線クラブ会長 松田竹徳

私たち三線クラブは、四月一九日、二〇日の一泊二日の日程で伊平屋島の史跡、歌碑めぐりの旅に出た。初めての伊平屋の旅にみな胸躍らせていた。

運天港を出港した時は、天候が悪く船も揺れていたが、甲板に出て船上からの景色を眺めながらしばしの船旅を楽しんだ。

前泊港に到着するとすぐ伊平屋村の民俗資料館を訪ねた。資料館には伊平屋の歴史がパネルでわかり易く説明され、昔から伝わっている民話や史跡等を記した貴重な文献があり、初めて訪れる者には非常に参考になった。

田名部落では、コミュニティセンターの一角に歌碑が建立されている。琉球古典音楽の本田名節、大田名節はここから出た歌で、歌碑の前に立つと琉球王朝時代が偲ばれ、古の歌枕に思いを馳せた。

田名部落を過ぎ北の方に車を走らせると、切り立った岩山が海岸の近くにある。そこを少し登ると大きな洞窟がある。天照大神伝説で有名な洞窟である。狭い入り口を通って中にはいると、そこはかなりの広さである。

洞窟は海面から大分上がつているが下は砂地であり、太古の海底を思わせる情景である。薄明かりをたどつて奥にはいると、いかにも神が宿っているかのような祭壇があった。洞窟全体が敬虔な雰囲気をかもし出し、今なお拝所として訪れる人が多いようである。

伊平屋島は琉球王朝の第一尚氏生誕の地であり、琉球の歴史に深く関わっている。各字には神社や拝所が数多くあり、先祖から今日まで自然を崇拝する心が脈々と受け継がれているのがうかがえる。

緑が映える山々と紺碧の色鮮やかな海が見事に調和した素晴らしい伊平屋の旅は、日頃の忙しさを忘れ、豊かな旅情気分を味わう旅であった。

